

つば×ともモデルエピソードアワード2025 応募作

ペンネーム	タイトル	内容
たっくんママ	共働き夫婦で家事分担	私が料理して、食後の洗い物は旦那、食器拭きと片付けは私で会話しながら、やっています！ 私が洗濯物を干して、旦那が乾いた物を畳んでくれます！TVを観ながら、会話しながらなので、家事は苦ではないですよ！
だよ	昔の雷おやじ的な…	見当違いでしたら、すみません。 友達から聞いた話なのですが、 ある日、子ども(4人)を連れて、ドラックストアへ日用品の買い物に行ったそうです。 親として、お店で走らない、遊ばないと注意はしているものの、やはり難しい状況もあり、母の言うことを聞かない時もあります。そして、なんとか買い物を終えて、帰ろうとした時、店員さんが母に「お子さんにお話ししてもいいですか？」と聞いてきたそうです。そして、子ども達に「お店では危ないので走らないで下さい」と話してくれたそうです。子ども達もまさかお店の人に注意させるとは思っておらず、素直に理解してくれたようです。 この話を聞いて、とてもありがたい行動だなと思いました。子育てをしていると、ちゃんと躰をしろよ、ケータイ見てないで、子ども見ろよと冷たい目で見られることもあります。もちろんその考えがごもっともだとは思いますが、私達母親も精一杯毎日子育てしています。そこに、冷たい目や冷たい言葉をかけられると、孤独しかないのです。 この時の店員さんのように、丁寧に注意してくださり感謝の気持ちでいっぱいだったそうです。 親側は、うちの子に何言うの??ではなく、直接間違いを言ってもらってありがたい。 周りは、お母さん大変だな、注意しよう。(もちろん、言い方はありますが…) というお互いの助け合いの考え方が私は大切だと思います。 昔は近所の雷おやじみたいな人がいましたよね。親だけでなく、地域みんなで子育て、または親育てもしていけたらいいとおもいます。互いに、想像力と思いやりをもち、孤独、孤立が生まれない燕市になってほしいです。
えいちゃん	洗濯物は自分で取り込む	取り組みの詳細：共働きで0歳と2歳の子どもを育てています。毎日の家事と育児に追われる中で、特に洗濯は「干す・取り込む・仕分ける・しまう」と工程が多く、気づくと自分一人の負担になっていました。仕事と育児で疲れているときほど、この負担が大きく感じられ、家庭内のストレスにもつながっていました。 そこで、洗濯のやり方を見直しました。洗濯物はこれまで通りまとめて干し、乾いた後は大人は自分の洗濯物を自分で取り込むというルールを取り入れました。一方で、0歳と2歳の子どもは自分で取り込むことができないため、その分は私がまとめて取り込み、着替えまで行っています。 この方法に変えてから、洗濯物を取り込んで仕分ける時間が大きく減り、家事の負担が分散されました。また、「自分のものは自分でやる」という意識が家族の中に自然に生まれ、声をかけなくても協力してもらえるようになりました。小さな工夫ですが、家事を「手伝ってもらう」のではなく「分担する」形になったと感じています。 特別な道具や費用は不要で、今日からすぐに始められる点も大きな利点です。共働き世帯が増える中で、こうした身近な工夫を市の広報などで共有することで、家事負担の軽減や家庭内のストレス低減につながると考え、今回提案しました。
ぴっか	スケジュールや写真の共有	子どもの写真や学校行事、家族の予定などのスケジュールをアプリで共有することで そのたびに連絡をとって予定の確認をすることがなくなりました。 また、献立も合わせて共有することで買い物リストを作成しやすく、 買い忘れも防げています。
みちえる	バイバイ水切りカゴ	台所のシンクの水切りカゴを撤去しました。 洗った食器類の水切りに使用していましたが、カゴ下にゴミが溜まってしまったり、カゴ本体の掃除が面倒だったり。不便が多かったので家族に相談して思い切って撤去！ 洗った食器類は拭いて棚に戻すことでゴチャつきも無くなり、日々のシンクのメンテナンスも楽になりました。